

I 平成29年度「寒冷地域における文化財の保存修復に関する研究」

●活動報告

石崎武志 ISHIZAKI, Takeshi／文化財保存修復研究センター研究員・教授

平成29年度「寒冷地域における文化財の保存修復に関する研究」の活動として、平成29年11月18日（土）に公開講演会「石造文化財の保存と修復」を東北芸術工科大学で開催した。また、平成29年11月19日（日）に専門家会議「寒冷地域における遺跡の保存に関する諸問題と対策」を東北芸術工科大学で開催した。遺跡調査に関しては、北海道開拓の村（札幌市）、大船遺跡（網走市）、青森県の三内丸山遺跡（青森市）、秋田県の伊勢堂岱遺跡（北秋田市）、毛越寺（平泉町）、山形県の元木の石鳥居（山形市）等で、観測機器を設置し、冬季の環境調査および劣化調査を行った。それぞれの活動について以下に報告する。

1. 公開講演会「石造文化財の保存と修復」

主 催：東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター

共 催：北海道・東北保存科学研究会

開催日：平成29年11月18日（土曜日）13：30～17：00

会 場：東北芸術工科大学本館301講義室

プログラム

- 13：30～13：40 開会挨拶
- 13：40～15：10 特別講演：韓国の石造文化財の保存の現状（イ・チャンヒ教授、国立公州大学、韓国）
- 15：10～15：20 休憩
- 15：20～15：50 講演1：石造文化財の保存処理の現状と問題点（澤田正昭、東北芸術工科大学）
- 15：50～16：20 講演2：石造文化財の保存、修復に関する事例（小林恵、応用地質株式会社）
- 16：20～17：00 総合討論
- 17：00 閉会挨拶

山形のある東北地方、その北に位置する北海道では、冬季に気温が零度以下になり、また降雪もあり、屋外の遺跡や石造文化財は、凍結・融解の繰り返しによる劣化現象が起こる。東北・北海道

地域における文化財の保存は、過酷な環境条件に対応する保存材料や技術の開発が重要な課題となっている。本学文化財保存修復研究センターでは、これらの地域の文化財保存の担当者と共同で、寒冷地域における文化財の保存対策の構築に取り組んでいる。本年度は、韓国の国立公州大学のイ・チャンヒ教授を招聘し、公開講演会を企画した。この他に、国内で石造文化財の保存、修復に関わっておられる専門家を招聘し講演をお願いした（写真1）。



写真1. 公開講演会の会場の様子

まず、本学文化財保存修復研究センター澤田正明センター長より、開会の挨拶があった。

次に、韓国国立公州大学イ・チャンヒ教授が「韓国の石造文化財の保存の現状」というテーマで、特別講演を行った（写真2）。



写真2. 講演する韓国国立公州大学イ・チャンヒ教授

ここでは、イ・チャンヒ先生が長く取り組んでこられた、韓国の石造文化財の保存修復研究に関して報告された。特に、様々な手法を用いての石造文化財の劣化度の詳細調査は、大変参考になるものであった。

次に、本学文化財保存修復センターの澤田センター長より「石造文化財の保存処理の現状と問題点」というテーマで報告がなされた。ここでは、澤田センター長が、奈良文化財研究所、筑波大学、国士舘大学在任中に、取り組んだ国内の石造文化財の保存修復事業やカンボジアのバイヨン寺院での石造文化財保存修復事業などについて報告を行った（写真3）。



写真3. 講演する本学文化財保存修復研究センター澤田教授

次に、応用地質株式会社の小林恵氏が、「石造文化財の保存、修復に関する事例」というタイトルで、名越切通の保存整備事例について報告を行った。名越切通は、鎌倉時代に中世都市鎌倉を取り囲む丘陵の尾根部を掘削して造られた鎌倉七口（七切通）の一つで、鎌倉から逗子、三浦半島に至る主要交通路である。



写真4. 講演する応用地質株式会社の小林恵氏

この史跡の保存整備事業に関して、基礎調査、対策工法の検討、保存対策工事の実施、施工効果の確認等、事業全体の流れが説明され、大変参考になる講演であった（写真4）。石造文化財の保存に関しては、文化財の保存修復の担当者にとって、重要な問題であるので、質疑応答が活発になされた。

2. 専門家会議「寒冷地域における遺跡の保存に関する諸問題と対策」

主 催：東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター

開催日：平成29年11月19日（日曜日） 9：30～12：00

会 場：東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター

プログラム

09：30	開会
09：30－09：40	開会挨拶（澤田正昭・東北芸術工科大学）
09：40－10：00	石垣の凍害、（北野博司・東北芸術工科大学）
10：00－12：00	寒冷地域の遺跡の保存に関する諸問題と対策に関する討論
12：00	閉会

まず、本学文化財保存修復研究センター澤田正明センター長より、開会の挨拶があった。ここでは、本学の特別プロジェクトとして進めている「寒冷地域における文化財の保存修復に関する研究」の概要説明がなされた。

次に、本学歴史遺産学科の北野教授より、函館市五稜郭跡、松前町松前城跡、弘前市弘前城跡、会津若松市若松城跡、白河市小峰城跡の石垣の凍害に関して詳しい報告がなされた。特に、石垣の、水堀水面ライン近くや屋根からの雨水のあたる部分の劣化が大きく、その保存対策に苦慮しているという説明であった。この後、本学文化財保存修復研究センターの石崎より、小峰城での環境測定結果が報告された。

次に、本専門家会に出席した専門家同士で、遺跡を保存する上での問題などに関して話題提供をして頂き、その保存対策の提案などに関して、活発な意見交換がなされた。